

事業紹介

平成19年度 研究テーマのご紹介

設備紹介 計装化シャルピー衝撃試験機

トピックス 中国での国際シンポジウムに参加して
—重慶と杭州—

トピックス キックオフセミナーを開催しました
—都市の安全・安心を支える環境浄化技術開発—

トピックス 高円宮妃久子殿下
八王子支所をご訪問になりました

Information お知らせ

本誌はインターネットでも閲覧できます。<http://www.iri-tokyo.jp> をご覧ください。



地方独立行政法人

東京都立産業技術研究センター

事業紹介

平成19年4月、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター（産技研）は、多くの企業にご利用いただき、法人化1周年を迎えることができました。今後も、新しい制度の特徴を活かした技術支援ニーズに即応したサービスの提供や柔軟な運営に努め、中小企業の皆様のニーズにあった技術支援を通じて、都内中小企業の振興を図り、都民生活の向上に貢献するよう最大限、努めていきます。

産技研の事業の体系は、事業化支援、技術協力、研究開発、技術移転を4本柱としています。

事業の主な項目と内容を次にご紹介します。

1.事業化支援事業

項目	内容
試験機器の利用	製品や材料等の試作、測定、分析に試験機器を利用頂けます。（有料）
デザインセンター	素材の選定から加工法の検討、機能設計、デザインモデルの試作や計測、安全設計技術支援など、製品化のための支援を行うとともに、売れる商品づくりを目指した総合的なデザイン支援を進めます。
ナノテクノロジーセンター	高性能なナノテクノロジー対応機器を設置し、機器の利用、技術相談、情報提供を行います。（城南支所）
環境試験センター（新設）	西が丘本部に環境試験機器を整備し、製品の環境試験に関する信頼性向上にむけた支援を行います。
製品開発支援ラボ	新製品・新技術開発をめざす企業の皆様に、開発支援の施設として有料で試作・実験スペースの提供を行います。
共同研究開発室	共同研究を実施する企業の皆様を対象に共同研究開発室を開設して、スピーディかつ実効性のある研究活動を支援します。
知的財産の活用	産技研が所有する特許を活用して、技術開発・製品開発を支援します。
産学公連携の推進	企業と産技研、大学との共同研究など産学公連携を促進します。また都が委嘱した専門のコーディネータにより技術開発・製品開発に向けた企業と大学等との連携の橋渡しを進めます。産業技術大学院大学との人材交流を含めた連携を促進するとともに、全国の大学や企業と企業との産学公連携を西が丘本部に設けた産学公イノベーションパブを通じ、推進します。
技術審査	表彰や助成事業に必要な技術審査を委託によって行います。

2.技術協力事業

項目	内容
依頼試験及び計量法校正事業者登録	企業の方々の様々な要望にお応えして、試験、測定、分析等を実施します。試験結果に基づいて、技術的なアドバイスも行います。昨年、新設し好評をいただいている「オーダーメイド試験」を活用し、JIS等の規格外の試験についても対応します。 また、今年の12月に「電気」区分の計量法校正事業者登録制度（JCSS）へ登録を行いました。今年度は「温度」区分への申請を行い、信頼性向上を図ります。
技術相談の充実	中小企業の皆様方に製品開発支援や技術課題の解決を図るため技術相談の充実を進めます。西が丘本部及び6支所のどの施設を訪ねていただいても課題解決に最適な部署を紹介できるよう努めています。
実地技術支援	皆様の生産現場での支援が必要な場合、職員の派遣（無料）の他、産技研の保有していない技術についても産技研に登録した外部専門家（エンジニアリングアドバイザー）の派遣（有料）を行っています。
業種別交流会	業界の方々と活動状況や技術的問題点、今後の取り組みなどについて情報や意見交換を行い、ニーズの的確な把握に努め、各事業に反映します。
技術研究会	都内中小企業の技術者と産技研職員によって構成される研究会です。課題解決や技術力向上を目的に活動しています。

3.研究開発事業

項目	内容
共同研究の推進	企業の方が産技研と共同で、それぞれの持つ技術を融合して、あらたな技術開発や製品化に向けた研究開発を進める事業です。これまで多くの新製品や特許が生まれています。年2回、4月と9月に公募を行います。
基盤研究の取組み	評価技術の向上や、蓄積した技術の提供による的確な相談支援、中小企業の皆様に対する一歩先の技術の提供など、産技研を利用する中小企業の皆様のニーズへ迅速かつ的確に応えるべく基盤研究を実施します。
受託研究の実施	企業の皆様方のニーズやご要望に応じて、経費を負担していただいて研究・調査等を実施します。
外部資金導入研究	国や財団等の研究資金の公募に積極的に応募しています。開発された研究成果をご利用いただけるように努めています。

4.技術移転事業

項目	内容	
技術セミナー・講習会	新技術の取得や技術力向上に意欲のある中小企業の方々を対象に、最新の技術等をテーマとした各種の研修を開催します。また、昨年新たに設けた「オーダーメイドセミナー」により、企業、団体のご要望に沿った研修や地域の産業の特性に応じた研修を行います。	
成果発表	研究成果をご理解・ご利用して頂くために、毎年、研究発表会を開催しています。また、研究成果品の展示と技術セミナーも開催し、情報発信を行います。	
展示会出展	研究成果や保有技術を、各種の展示会へ出展し、技術の普及に努めます。	
刊行物	研究開発の知見を取りまとめた研究報告、最新の技術情報を掲載した月刊誌TIRI News等を発行します。	
情報提供	ホームページ	センターの紹介、研修・セミナーの案内、試験、設備等の利用方法など、タイムリーに発信します。
	メールニュース	各種行事や研修・セミナー募集のお知らせ、刊行物の紹介などの役立つ情報を配信します。
	首都圏テクノナレッジ・フリーウェイ	首都圏（東京、神奈川、千葉、埼玉）の4つの公設試験研究機関が連携して、設備や保有技術などの情報をインターネットで提供しています。技術的な相談についても、各機関が協力して対応しています。
見学	施設公開	主要施設や設備を中小企業及び都民に公開し、各種事業を紹介するとともに産業技術の普及をはかるため、年1回、本部及び各支所の施設を公開します。
	一般見学	企業・業界団体・学校及び都民からの要望に応じて団体見学を随時受け付けています。

経営企画本部 経営企画室 <西が丘本部>
TEL 03-3909-2151

平成19年度 研究テーマのご紹介

平成19年度は、下記の各分野について計49テーマの研究開発を実施いたします。
このほか、共同研究、外部資金導入による研究、受託研究・調査が予定されております。

◇ナノテクノロジー分野

- * 標準物質作成に向けた産業用貴金属合金の高精確化学計測技術の確立
- ・ 押出し成形におけるブロック共重合体のドメイン配向の制御
- * 湿式法によるセラミックスナノチューブの試作と評価
- ・ 導電性参加金属薄膜のECRスパッタによる作製技術の開発
- ・ 水素化物形成金属のナノ結晶化による機能性発現
- ・ 放射線グラフト重合法による超高分子量ポリエチレン繊維の染色性改善に関する研究
- ・ アルミニウム・高ホウ化合物材料の開発（ γ -AlB₁₂の作成）
- ・ CVDダイヤモンド膜の効率的鏡面仕上げ方法の検討
- ・ 摺動部品のための高耐摩耗性DLC膜の開発

◇IT分野

- * セキュアな組み込みシステムの構築法
- * フィールドバスによる通信を用いた組込機器開発支援

◇エレクトロニクス分野

- ・ フロック飛翔性測定技術の開発
- ・ 紫外線効果用LED照射駆動装置の開発
- ・ 有機材料を用いた電子回路パターンの製造技術に関する研究
- * 赤外線画像による電子回路基盤・部品の故障診断法の開発
- ・ 熱光発電機構による薄膜太陽電池の開発
- * 伝導ノイズ対策用電磁界プローブの開発

◇システムデザイン分野

- ・ 企業の自社シーズを市場に製品展開するための手法の検証
- ・ 視覚障害者のための触覚入出力装置を実現する三軸力覚センサの開発
- ・ ナイロン粉末RP成型物の機械的材料特性に関する研究

◇環境分野

- ・ 振動制御によるアクティブ遮音システムの開発
- ・ ポリマーアロイ化手法による減量加工系の開発
- * 竹繊維を用いた低環境負荷型複合素材（BFRP）の開発
- * 亜鉛めっきのクロムフリー化成処理皮膜の開発
- * 廃ガラス発泡体を用いたリン酸再循環利用システムの開発
- ・ バイオ燃料の由来判別のための簡易C¹⁴測定技術の開発

◇少子高齢・福祉分野

- ・骨導音の聴覚感度特性の計測
- ・ハイサポート製品の圧迫圧測定方法の確立
- ・働く女性のための機能的マタニティウェアの製品開発
- ・ヘルスケア（介護・福祉）製品の濡れ感の評価

◇バイオテクノロジー分野

- *高エネルギーイオン注入によるバイオマテリアルの表面改質
- ・JIS化に伴う医療機器のエンドトキシン試験法の再評価
- *PSL法、TL法による照射食品検査の信頼性の実証と新規検知法の開発

◇基盤技術分野*

- *遠赤外線分光放射照度測定技術の開発
- ・工業用懸濁液における局所定量分析技術に関する研究
- *天然系成分による皮革および革製品の防かび加工技術の開発
- *0℃～1100℃におけるR熱電対による比較校正の不確かさ評価
- ・機械計測における高信頼性測定法の確立
- *回転プローブによるMg合金の物性改善及び接合法の開発
- ・繊維の加工技法を応用したオリジナル製品の開発
- ・ブリーツ性試験方法と装置の開発
- ・重イオンビームを用いた材料表面近傍の水素定量法の開発
- ・ステンレス鋼における最適疲労設計基準の確立
- ・工具鋼へのダイヤモンド成膜技術の開発（摩擦係数の低減および耐剥離性の向上）
- ・示差走査熱量計（DSC）の高感度化に関する研究
- ・分光応答度測定用標準受光器の評価
- ・液相中でのナノ粒子担持法の開発
- ・ヘリウムスパーク放電発光分光分析法を用いたマグネシウム合金分析法の開発
- ・三宅ガラスの新製品開発 ～色のバリエーションとクリスタル化～

*は外部評価対象研究テーマ

【基盤技術分野の研究とは？】

試験技術や評価技術の向上や、蓄積した技術をもとにした的確な技術支援、中小企業のみなさまへの一歩先の技術の提供など、産技研をご利用になる中小企業のみなさまのニーズに、迅速かつ的確に応えられる機能を向上させるための研究を「基盤技術研究」として実施してまいります。

経営企画本部 経営企画室 <西が丘本部>
TEL 03-3909-2151

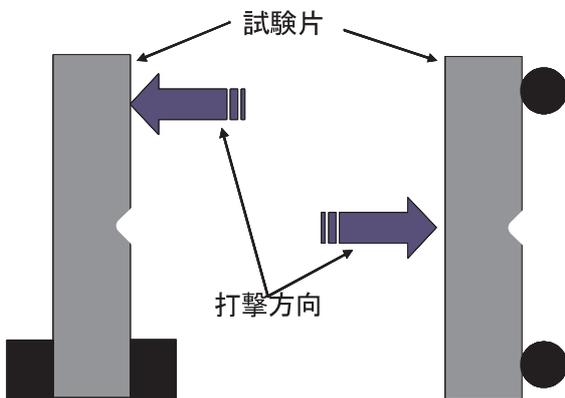
計装化シャルピー衝撃試験機

プラスチック成形材料の物性表にはシャルピー衝撃値が表示されています。シャルピー衝撃値の求め方には従来法の外、計装化シャルピー衝撃試験機による方法があります。この方法では衝撃破壊が進行する数ミリ秒間の荷重変化を時間の関数として記録します。

アイゾット衝撃値からシャルピー衝撃値へ

プラスチック成形材料の物性表には様々な数値がならんでいます。通常、耐衝撃性の目安になるものはシャルピー衝撃値しかありません。このため、シャルピー衝撃値は、プラスチック製品を叩いたり落としたりしたときに壊れやすいか否かを判断するために不可欠な物性値となっています。シャルピー衝撃値は、2000年にJIS K7140-1「プラスチック—比較可能なシングルポイントデータの取得と提示— 第1部：成形材料」に採用されて以来、アイゾット衝撃値に代わって物性表に用いられています。

シャルピー衝撃値とアイゾット衝撃値は、ノッチのついた試験片をハンマーの振り下ろしによって破壊し、破壊に要したエネルギーを測定する試験によって得られます。似たような試験機を用いますが、図1のように打撃位置や方向、試験片の固定方法が異なり得られる値は互いに換算できません。



アイゾット衝撃試験

シャルピー衝撃試験

図1 アイゾット衝撃試験とシャルピー衝撃試験
アイゾット衝撃試験は試験片の片端を固定してノッチの付いている方向から打撃するのに対し、シャルピー衝撃試験は試験片の両端を支持してノッチと反対側を打撃する

計装化シャルピー衝撃試験機

JIS K7111-1とK7111-2に定められているプラスチックのシャルピー衝撃値の求め方には、振り子の振り上がり角からエネルギーを求める従来法の外に、計装化衝撃試験機を用いた方法があります。日本自転車振興会の機械工業振興補助事業により当センターに設置されたシャルピー衝撃試験機（図2）はこの二つの規格に沿った試験が可能です。



図2 計装化シャルピー衝撃試験機

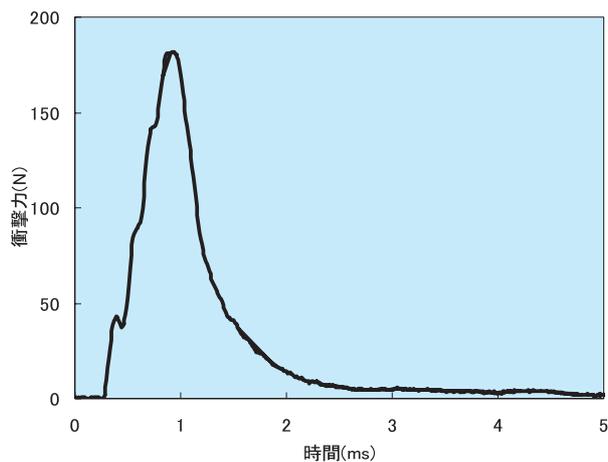


図3 衝撃力-時間曲線

計装化衝撃試験では、ハンマーが試験片にあたっている数ミリ秒間の力の変化を図3のように記録します。この曲線から破壊に要したエネルギーを計算できるだけでなく、曲線の形状から破壊様式が延性的か脆性的か類推することができます。

研究開発部第二部 材料グループ <西が丘本部>

清水研一 TEL 03-3909-2151 内線337

E-mail:shimizu.kenichi@iri-tokyo.jp

本装置は日本自転車振興会の平成18年度自転車等機械工業振興補助事業により導入しました。

中国での国際シンポジウムに参加して —重慶と杭州—

来年の北京オリンピックを控え、中国の経済はめざましく発展していますが、同時に公害や環境汚染問題も発生しています。中国の重慶と杭州で開催された環境問題に関する日中韓シンポジウムに参加しましたので、報告いたします。

日中韓環境分析シンポジウム

平成18年9月14日～18日に、重慶市郊外の西南大学で表記のシンポジウムが開催されました。日本、中国、韓国で環境分析を行っている大学、国公立の研究所、民間の分析機関の研究者や技術者が、東アジアの環境問題、分析方法の開発や評価について発表し、意見交換を行いました。

重慶（四川省）は、中国の内陸部に位置している重化学工業都市で、大気汚染が進んでいる都市としても知られています。そこで、中国の環境汚染の現状を自分の目で確かめたかったこと、環境分析技術のレベルを知り、研究者や技術者と交流を図る目的で参加しました。参加者は、日本から22名、中国から80名、韓国、その他の国から6名が参加し、招待講演15件、口頭発表41件、ポスター発表38件でした。

今回は「硫黄酸化物の大気汚染を日本はいかに克服したか」という演題で招待講演を行いました。内容は、日本の大気汚染の歴史、公害防止の法律の整備と変遷、燃料の転換、脱硫技術、硫黄酸化物分析方法を紹介した後、産技研で開発した燃料中の硫黄分、排ガス中の硫黄酸化物分析方法と連続分析装置について紹介しました。

シンポジウムでは、中国の参加者から日本が大気汚染や水質汚染などの環境問題をどのように解決してきたのか質問を受けました。日本では、(1) 公害や環境問題がひどかった昭和40年代に公害を防止する法律を制定し、(2) 大気や水質を汚染する物質の除去方法や装置の開発と企業での設置、さらに、(3) 工場の排ガスや排水の分析技術、モニタリング技術の開発を行い、これら3つの対策により環境汚染を解決してきたことを説明しました。また、環境汚染防止の資料や文献を差し上げて、交流を図りました。

最終日に重慶市内を見学しましたが、市内を流れる長江の対岸がかすんで見えにくく、やはり大気汚染の影響であると、地元の学生さんが教えてくれました。その後、12月15日の朝日新聞朝刊では、同じ四川省の上流にある世界遺産の「楽山大仏」にも酸性雨の影響があると報道されていました。



図1 重慶市内を流れる長江の対岸を望む
大気汚染の影響で対岸がかすんでいました

日中韓イオンクロマトグラフィーシンポジウム

平成18年11月28日～30日に、杭州市の浙江大学で表記のシンポジウムが開催されました。

参加者は、日本から21名、中国から150名、韓国から15名、その他の国から10数名が参加し、口頭発表25件、ポスター発表91件でした。

このシンポジウムは、イオンクロマトグラフィーに関する研究者や技術者の集まりで、環境分析、材料や製品等の品質管理などの研究発表と情報交換の場として2年に1回開催されています。今回は、産技研で開発した「化学反応を利用した簡便なイオンクロマトグラフィーによる環境分析」という演題で口頭発表を行いました。内容は、装置内に内蔵されている電気伝導度検出器では測定できない環境汚染物質であるシアン化合物、ホルムアルデヒド、塩素などを、測定可能なイオン種に変えて簡便に測定する方法、排ガス中のハロゲン化合物を同時測定する方法について報告しました。この詳細は、分析化学、54、191（2005）に掲載されていますので、ご参照、ご利用ください。

研究開発部第二部 資源環境グループ <西が丘本部>
野々村誠 TEL 03-3909-2151 内線349
E-mail: nonomura.makoto@iri-tokyo.jp

キックオフセミナーを開催しました —都市の安全・安心を支える環境浄化技術開発—

7大学9研究室、12企業、1組合、2研究機関が参加する産学公の大型プロジェクトが平成18年12月から始まりました。このプロジェクトを紹介するキックオフセミナーを3月27日に開催しましたので、ご紹介します。

はじめに

この産学公の大型プロジェクトは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が進める地域結集型研究開発プログラムの平成18年度課題として採択されたものです。東京都に集積する知的資産を活用し、環境浄化材料の創生と有害化学物質の処理技術により、都市型環境産業の創生を目指します。

- ◇事業期間：平成18年12月1日から5年間
- ◇事業費：年間2.4億円程度（JST負担分）。地域もJSTと同等の負担を行う。

Phase	Phase I			Phase II			Phase III		
年度（平成）	18	19	20	21	22	23	24	25	26
事業全体の位置づけ	事業開始 → 基礎開発 → 中間評価			応用開発 → 事業終了			製品化開発		

図1 プログラムの年度計画

このプロジェクトを紹介するキックオフセミナーを3月27日に大田区産業プラザ（PiO）のコンベンションホールで開催し、150名に及ぶ多くの皆様のご参加をいただきました。なお、本セミナーは、JST、東京都、東京都立産業技術研究センター（産技研）の共催で、（社）日本塗料工業会、日本塗装機械工業会、（財）大田区産業振興協会、（財）東京都中小企業振興公社の後援を得て開催しました。

都市の安心・安全を支える環境浄化技術の開発

日時：平成19年3月27日（水）
場所：大田区産業プラザ（PiO）コンベンションホール4階 第1ホール
参加費：無料

プログラム

- 15:30～15:40 開会・挨拶
- 15:40～16:25 基調講演「VOCって何？」
- 16:25～16:45 東京緑のVOC削減計画への取組
- 16:45～17:05 産学公連携型研究開発プログラムの概要
- 17:20～18:20 都市の安心・安全を支える環境浄化技術の開発
- 18:20 閉会挨拶
- 18:30～20:00 交流会

図2 セミナーの案内

キックオフセミナーの様子

東京都副知事 関谷保夫氏、JST理事長 沖村憲樹氏の開会・挨拶から始まり、本事業の企業化統括である都産技研理事長 井上から研究体制や各研究テーマのねらい、目標などプログラム全体の説明が行われました。



図3 東京都副知事 関谷保夫氏のご挨拶



図4 JST理事長 沖村憲樹氏のご挨拶



図5 産技研理事長 井上 滉による説明
当日の講演プログラムを以下に示します。
基調講演「VOCって何？」

東京大学教授 柳沢 幸雄氏
東京都のVOC削減への取組み

東京都環境局参事 柿沼潤一氏
東京都地域結集型研究開発プログラムの概要

東京都立産業技術研究センター理事長 井上 滉

環境浄化材料の開発

慶應義塾大学教授 仙名 保氏

土壌汚染と都市の安心

東京薬科大学教授 貝瀬利一氏

中小企業向けVOC処理装置の開発

東京都立産業技術研究センター部長 吉田裕道

本研究開発プログラムの概要

当日の講演を基にプログラムの背景・課題や平成19年度計画の概要を紹介します。

本地域結集型研究開発プログラムでは、高性能な新吸着材と新触媒を開発し、これらの材料を活用して中小企業向け大風量・低濃度のVOC処理装置の製品化を実現し、都市の環境を改善するとともに環境ビジネス産業を東京都に創生することを目的としています。

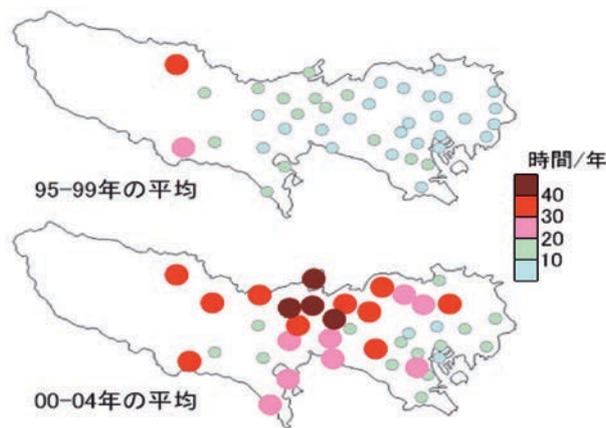


図6 光化学スモッグ注意報等の年間発令時間の推移
近年、高濃度オキシダント発生時間が増加し都内全域に拡大しており、VOC対策は喫緊の課題です



図7 塗装工場からの排気ダクト
都内では住宅と工場が混在しておりVOC発生工場にとって処理装置の低価格化・小型化は必須条件です

表1 業種別VOC処理の課題

都内の主なVOC発生業種の中でも、塗装業におけるVOC処理装置の開発は課題が多い

業種	課題
塗装	高価 大風量 多成分
印刷	高価 中風量
クリーニング・給油	高価 土壌汚染
金属表面処理	高価 回収液品質

表2 本プログラムの開発目標

	テーマ1: 浄化材料の開発	テーマ2: 処理装置の開発
フェーズⅠ	材料の開発 ① 吸着材(アパタイト・天然骨) ② 光触媒(トルエンの分解)	装置構成要素の開発 ① 小型回収モジュール (吸着量10kg) ② センサ(寿命5,000時間)
フェーズⅡ	高性能化と量産化技術 ① 吸着材と光触媒の複合化 ② 材料の試作(吸着材50kg)	装置の試作と実証実験 ① 新材料を用いた処理装置を試作 ② 企業・組合と実証実験(大気・土壌)
フェーズⅢ	高性能な新材料と安価な処理装置を製品化して環境浄化することにより都市の住工近接の問題を解決し、新環境産業を創生する。	価格: 300万円以下 設置面積: 3.3m ² 処理風量: 20,000m ³ /時

平成19年度の主な研究開発テーマ

- ① 塗装ブースシミュレータによるVOC発生の調査
- ② VOC捕捉技術の開発
- ③ リサイクルシステム要素技術の開発
- ④ VOC処理実験装置の試作
- ⑤ VOC処理装置評価法の研究
- ⑥ 吸着モジュールのリサイクル技術開発
- ⑦ プラズマによるVOC処理効率の向上
- ⑧ VOCフィルターの開発

本プロジェクトの詳細については、TIRIニュース平成19年1月号ならびに以下のホームページを合わせてご覧ください。

<http://create.iri-tokyo.jp/>

また、下記の問い合わせ先でもご質問やご意見をお待ちしております。

地域結集事業推進部 企画チーム <西が丘本部>

佐々木智憲 TEL 03-3909-2151 内線469

E-mail: Sasaki.Tomonori@iri-tokyo.jp

高円宮妃久子殿下 八王子支所をご訪問になりました

平成19年2月27日（火）高円宮妃久子殿下が、有職文化研究所が手がけている宮廷装束復元プロジェクトのメンバーとともに、八王子支所の染色工場にて紅花染めをされました。

宮廷装束復元プロジェクトメンバーとともに

特定非営利活動法人有職文化研究所*（衣紋道高倉流）は、「十二単」や「直衣」などの宮廷装束を、衣紋道高倉流に伝わる史料などを参考として、繭の生産から縫製に至るまで一貫して平安時代の手法において復元するという6年間のプロジェクトに取り組んでいます。プロジェクトメンバーは平成17年11月から八王子支所を利用しながら、主に染色工場ですぐ草染め作業やその過程の映像を記録しています。こうしたプロジェクトに常々関心を示されている高円宮妃久子殿下が染色作業をご視察されることになりました。

紅花染めをされる

当日は10時30分に到着され、当センター理事長井上 滉、有職文化研究所代表理事仙石宗久氏、国際文化学園理事長平野徹氏らがお出迎え後、管理棟連絡調整室で井上から歓迎のご挨拶を申し上げます。その後、染色工場へご案内して、プロジェクトメンバーの山崎和樹氏から紅花染めの説明を受けました。また、実際にご自身で十二単用の反物を手染めされました。

親しみを感じたご滞在

妃殿下のご滞在は約5時間で、この間、緊張の中にも妃殿下の気さくなお人柄に接することができ職員一同大変感激しました。お見送りは当センター理事鈴木節男らで、談笑の後お発ちになりました。

事業化支援部 <八王子支所>

中島 茂 TEL 042-642-7175

E-mail:nakajima.shigeru@iri-tokyo.jp

*有職（ゆうそく）文化研究所は、「有職故実（宮中の伝統的な行事・儀式などに関する知識）」にまつわる服飾、礼法、宮廷文化、歴史などの研究を通して成果を普及して広く社会に寄与することを目的とする団体である。



プロジェクトメンバーが見守る中、妃殿下が紅花染めされる。
（研究棟染色工場）

左：染料の抽出
中：染色
右：染上がり



プロジェクトメンバーとともに（研究棟染色工場）



産技研職員とともに（研究棟玄関ホール）

産業交流展2007 出展企業募集

産業交流展2007は、首都圏の積極性あふれる個性豊かな中小企業の優れた製品や技術を一堂に展示する、国内最大級の見本市です。

10回目となるこの展示会では、販路開拓による受発注の拡大や、情報収集・交換の場を求める元気な中小企業のみなさまの出展を募集しています。

- ・キラリと光る独自の自社技術をアピールしたい
- ・新しい経営手法で会社をもっと強くしたい
- ・異業種交流で新販路や技術開発の道を拓きたい
- ・海外進出ヘリスクの少ない方法を知りたい

などのみなさまの声にお応えする、新しい可能性への扉がここにあります。

開催について

- 開催期間
平成19年10月25日（木）～26日（金）
- 会場
東京ビッグサイト 西1・2ホールほか
- 主催
産業交流展2007実行委員会（東京都、産技研など）
- 企画

基調講演／特別講演などのステージイベントのほか、出展者向けセミナー、出展者PR、出展者交流などの企画が予定されています。また、東京都ベンチャー技術大賞表彰式・東京デザインマーケットなども同時開催予定です。



←会場のようす

↓首都圏技術支援
ネットワークコーナー



産業交流展2006

出展募集概要

- 募集期間
5月1日（火）～7月31日（火）<先着順>
- 対象
東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県に事業所のある、「情報」、「環境」、「医療・福祉」、「機械・金属」に関連した中小企業・団体など
- 出展料 52,500円／1小間（約9㎡）
- お申し込み・お問い合わせ先
産業交流展2007運営事務局
TEL 03-3503-7807

下記URLから、出展申込書をダウンロードできます。

<http://www.sangyo-koryu2007.jp/>

東京デザインマーケット デザイン提案募集

産業交流展と同時開催予定の東京デザインマーケットに出展するデザイン提案を募集しています。

- 募集期間6月25日（月）～7月25日（水）
- 対象
中小企業との商品開発を希望するプロのデザイナーの方
- 詳細は、下記URLからご覧ください
<http://www.tokyo-design-market.jp/>
- お問い合わせ先

日本産業デザイン振興会
TEL 03-6743-3777

東京都立産業技術研究センター 平成19年度施設公開予定

西が丘本部	9月12～13日
城南支所	9月13～15日
八王子支所	10月10～11日
駒沢支所	10月12～13日
墨田支所	10月17～18日
城東支所	10月19～21日

地方独立行政法人
東京都立産業技術研究センター

研究発表会

入場無料

●西が丘会場

日時:平成19年6月7日(木)、8日(金)10:00～

場所:東京都立産業技術研究センター 西が丘本部
(北区西が丘3-13-10)

内容:IT、エレクトロニクス、環境、ナノテクノロジー、デザイン、工業材料
福祉など

※成果展示同時開催

西が丘会場特別講演

日時:6月8日(金)13:30～14:30

ひとが主役となる「ものづくりナンバーワン国家の実現」

—第3期科学技術基本計画から—

成瀬雄二郎氏(内閣府総合科学技術会議事務局 政策企画調査官)

お問い合わせ先:情報システム課広報係 TEL 03-3909-2151

●墨田会場

日時:6月12日(火) 13:30～

場所:東京都江戸東京博物館1階会議室
(墨田区横網1-4-1)

内容:繊維関連技術

※FAXによる事前申し込み 定員100名(先着順受付)

お問い合わせ先:墨田支所 TEL 03-3624-3732



地方独立行政法人

東京都立産業技術研究センター

<http://www.iri-tokyo.jp>

TIRI News

2007年6月号 通巻14号

発行日/平成19年5月30日(毎月1回発行)

発行/地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター

総務部 情報システム課 広報係

〒115-8586 東京都北区西が丘3-13-10 TEL 03-3909-2151 内275

企画・印刷/秀研社印刷株式会社

(転載・複製をする場合は、情報システム課広報係までご連絡下さい。)

この印刷物は石油系溶剤を含む
インクを使用しています。
R100
古紙含有率10%以上再生紙を使用しています。